後遺症患者を法で守ろう！

詩人

宮浦　平田光男

日本の総理大臣がウソをいった
そして
傷つきやすい少女を
苦しめている

豊里炭鉱の坑夫達が
心配のあまり話していたことを
聞きつけて
少女は
総理大臣に手紙を書いた
「私達の炭鉱をつぶさないで
下さい」
と

総理大臣は答えた
「つぶしません」
と

その舌が乾かないうちに
合理化という名のもとに
その炭鉱はつぶされた

安い賃金で仂かされている若い
炭鉱夫には
のぞんでも嫁の来てはない
しかも危険にさらされている坑
内で仂く者

ましてCOガスを吸った若者に
はなおさら
嫁の来てはない
楽しかったであろう婚約時代
楽しかったろうデイトの日
しかし
その楽しかったことを
いや恋人の顔さえ忘れているそ
の若者は――CO患者

ベッドの上に起ちあがり
上衣の袖を足にはき

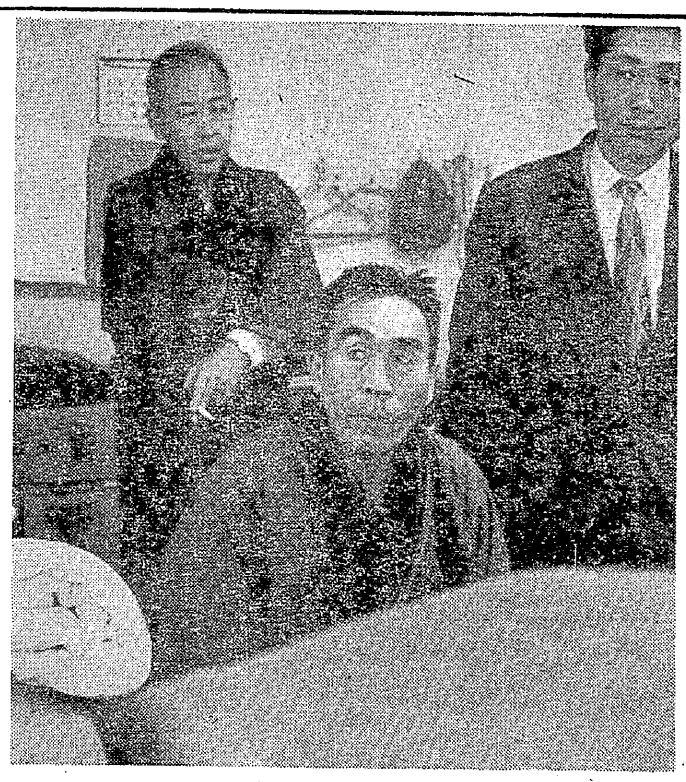
ズボンを頭からかぶろうと一生
懸命の若者

横たわったまま身動きもできず
かろうじて心臓がとまらぬよう
に
鼻より流動食を流しこんでもら
っている若者
或る療養所では
所長が
患者に薬さえ与えようとはせず

所長としての任務を
特権階級へのごますりとすりか
えている

これらの若者を守る力は何か
俺達労仂者の力

安心して仂ける職場をつくるに
も
これらの患者のために
CO特別法を勝ち取ろう



52才の西田学さんも、三池のCO患者の1人。熊大病院に入院して、治療をつづけているが、いまもつて言葉を知らず、怒りを知らず、奥さんの認識さえさだかでない。

しゃもじをたたきつけてやる

宮浦　高椋龍生

きょうはかあちゃんから
なんと素晴らしい
らんらんと燃ゆる
怒りのことばを聞かされた

「しゃもじの中まで合理化が
しみこんでいる」

かあちゃんのその目は
確かなものを見つめている

くらしをゆがめているのは
合理化だとかあちゃんがいう

うすよごれた
しゃもじを見つめながら
腹の底からつきあげてくる
怒りといっしょに
この
しゃもじを敵の面に
たたきつけやてるんだ

酒

宮浦・朝日丘　森川久美子

今日も窓の外では妙に暖い風が吹き、小さな雨がいやにしめっぽく降っています。じっとコタツに足をつっこんで、外をぼんやりながめながら、酒のことを思い出しました。

私は中学時代からしみじみ、酒のみさんには少しの不安とおそろしさを感じてきました。どんなにおとなしくやさしい人でも、酒の度のこし方によって荒っぽくなりふだんの人とは思えぬ人格になるからです。

せっかくの健康な身体、仂きざかりを発揮することなく、明日に疲れをもちこすことは、自分にとっても不利になる原因の一つかもしれません。酒は、ただのむというだけでなく、希望のある、おいしい酒の味にしたいものです。

酒をのむには、不安のない、しっかりした判断と限度がいるということを、身をもって味あうことが一番大切だと思います。人間、なによりも健康が一番のたからだと私は信じます。

生きる限り健康であり、仂くことによって苦しさにたえ、ともによろこびを……。こうして、山あり谷ありして過ぎてこそ、ささやかでも、よりよき家庭生活を築いていくことができるのではないでしょうか。

よろこびをともに
くみかわす酒

悲しみに
ひたる酒

苦しみを
まぎらす酒

人間の本能も
くずす
いやな酒

ほのかな　かおりを
ただよわし
心をまよわす
あやしい酒

酒で身がもてば
酒でつかれを
いやされるなら
酒でごまかすことが
ゆるされるなら
わたしも酒を
あおってみたい

モスクワ便り

一日も早く――〝CO特別立法〟を

村田優君から

九州ではもう桜も咲いたころかと思われますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。モスクワではやっと、長かった冬に終りを告げようとしております。いまでもほんの少し雪が冬の名ごりをとどめていますが、人々の心の中にはいち早く春がおとずれた感じです。

もうどうにかこうにか、ロシヤ語を話せるようになりましたが、まだ卵からヒヨコがかえった程度で失敗談もあります。

昨年の十二月頃でしたか、この大学の、別の所にある寮へ用事があり、一人でかけたときのことです。どうしたことか電車から降りる駅を間違え、遠くまで乗り過ごしてしまいました。

夜も遅く、非常に寒い日でしたから胸がドキドキ。やってきたおばさんや子どもに話して連れていってもらったら、寮はあったものの別の大学だったり。

さいわい散歩していた子ども連れの夫婦の人に話しますと、「そこへ行くのはやめて、家へ帰りなさい。今夜は非常に寒く、寮も遠い」と、親切に電車の駅まで連れていってくれた上、プラットホームへでて手を振って見送ってくれました。

その後目的の寮をさがしだしてこの失敗談は終りですが、おかげで非常にロシヤ語の勉強になりました。これからも、どしどし道を間違えようと思っています。

それにしてもロシヤ人は、親切で、ほがらかで、おしゃべり好きですばらしいです。

今年は〝大十月社会主義革命〟五十周年記念の年で、こちらでは十一月にむけて大建設計画がすすんでいますが、さてこれから五月の〝労仂者の日〟メーデーで、皆様も大変かと思います。一日も早く、毎日毎日を心から喜べる日々にしたいものです。

CO中毒患者を守る特別立法を
労災補償打ち切り反対！

四月十四日

×

村田優君は、いまモスクワの〝アジア・アフリカ諸民族友好大学〟に学んでいる、しあわせな三池の子の一人です。お父さんは本所支部の村田義晴さんです。

夫へ一言

いまが新婚のよう

昭和三十八年の四月十四日、本所水道課につとめる主人（通敬さん）と結婚してもう四年、子ども三つになりました。

水曜コーラスで知りあったのが縁で、〝誰にもはずかしくない恋愛〟をしてのゴールインだったのですが、結婚当初の方がいろいろと苦労があって、あまり新婚気分を味あうというような気持にはなれなかったので、むしろいまの方が新婚のような気がします。

思慮深い

「夫へ一言」といわれても、オノロケの方が多くなって申しわけありません。

主人はどんな人かといわれても一口でいうのはむづかしいですがそうですネ、思慮深くて、ガマン強くて、ネバリ強い、無口でとてもまじめです。まあ、馬鹿正直といってもいいくらい。

人がいやがることも、イヤな顔しないような人です。この点は全くエライと思います。でも、これが消極的な性格にみえることがあります。

主人のお父さんが転勤だったので、何回か脱落するように説得があったのですが、このときも別にさからいもせず、うなずきもせず黙っているばかりなので、お父さんの方も根負けしてしまったようです。

こんな状態ですから、私たちの間も、なかなかケンカになりません。

私たちのため子どものため

主人の給料は月に一万八千円くらい、私が牛乳配達で五～六千円かせぎます。生活は苦しいけど、私たち二人のために、子どものために、貧しくとも正しいことを、胸をはってやっているという気持で、とりたてて疑問をもったことはありません。

お金がもっとあったら、これにしたことはないのですけど……

勉強と活動を

注文というならば、主人は以前より、よく集会や学習会に参加するようになりました。昨年も労大に参加しましたし……。

だから、今後もお互いにもっと勉強して、もっと活動していこうと思います。

派手なものではなく、地道な活動家であってほしいと思います。

私が学習会などに参加すると恥しいというけど、そんな気持も克服してやりたいと思います。

苦しみ分かち合う夫婦

「勉強したい……」と思う ⑲

本所　新本ハルヨさん

奥様メモ

・…卵の上手なゆで方。沸騰した湯に卵を入れると半熟が五分、八分熟が七分堅ゆでが十五分かかります。

―S